献　　辞

2012年３月末をもって，長年にわたって本学の発展に寄与された人文学部人間関係学科教育学専攻所属の森川　泉先生がご退職されました。

森川　泉教授退職記念号として『広島修大論集』第53巻第１号が刊行されるにあたり，先生の多面にわたるご業績の一端をご紹介し，献辞に替えさせていただきます。思えば私個人のこれまでの大学人生活において，先生からは本当に多くのご示唆を頂戴しました。このように献辞を書かせていただくことに深い因縁を感じずにはいられません。

森川　泉先生は，人文学部誕生の翌年1974年から本学に「教育計画論」「教育行財政学」担当の専任講師として就任され，38年間の長きにわたり奉職されました。まさに，人文学部と共に歩まれ，教育学専攻についてはその礎をしっかりと築いていただきました。それ故，教育学という学問を中心にしてきた専攻への思い入れも強固なものであったと思いますが，この度の小学校教員養成を主たる目的とする専攻への転換に関しては，専攻の将来を考えて，むしろ積極的に応援をしていただきましたことを，本当にありがたく思いだします。

さらに，総合研究所次長（80－82），総合研究所所長（90－94），教務部長（94－96），人文学部長（96－00，03－06），図書館長（08－12）等を歴任，奉職期間のおよそ半分近くを行政職として過ごされ，大学運営にも深く関わられました。さまざまな難局にも直面され，ご苦労をされたことと思います。常に大局的な視点で職責を果たされているお姿にはいつも敬服するばかりでした。先生の大学に残された大きな足跡を大切にしてまいりたいと思っています。

また，先生はそんな激務の中にあっても，1994年に，レスター大学留学時代（86－87）等に集積された膨大な資料を丹念に分析された「イギリス中等教育行政の成立過程に関する研究」で博士号学位を取得され，1996年には『イギリス教育行政史研究』を風間書房より公刊されました。その後も，研究の舞台を日本の私立大学問題に移され，「戦前の大学設置（昇格）認可行政における私立大学財政問題―私立大学政策問題史研究（4）―」など，着実に業績を積み上げておられます。その集大成としての研究書の刊行は，教育行財政を専門にしている研究者が心待ちにしているところです。

大学で先生の姿を見られなくなったことを大変寂しく感じておりますが，ご実家近くにある畑で作物を育てながらの，まさに晴耕雨読の自適な生活を送られているとお聞きしております。先生のますますのご健勝とご活躍をお祈りし，今後とも大学の発展を見守っていただくようお願いする次第です。

人文学部長
岡　本　　徹